

種子か苗を入手して栽培するのが一般的で、種まきの適期は、耐寒性種が9~10月、非耐寒性種が4~5月です。苗床に種子をばらまき、薄く覆土して育苗します。苗の植えつけ適期は秋まき種は11~12月、春まきは6~7月。地植えの場合は、株間を15~20cmほどとり、鉢植えの場合は、5~6号鉢に1株を目安に植えつけましょう。

生育温度

いずれも生育適温は15~25℃、発芽適温は20~25℃です。冬越しは種類ごとに違い、耐寒性種は-15℃まで耐えるので、寒風を避け、霜柱対策をする程度で容易に越冬しますが、非耐寒性種は7℃以下になると枯れてしまうため、多年草として育てるには加温設備のある温室が必要です。なお、夏越しはどの種類も問題ありません。

手入れ

花後に、種子を採らない花は花房ごと切り取り、枯れ葉もこまめに取り除きましょう。

日照

日向を好みます。地植えの場合は、なるべく日当たりのよい場所に植えつけ、鉢植えの場合は、よく日光に当てて育てましょう。

水やり

いずれも4~10月は、土の表面が乾いたらたっぷりと水を与えます。11~3月は水量を減らし、乾かしぎみに保ちましょう。

土

水はけがよく、腐植質に富んだ肥沃な土を好みます。地植えの場合は、1m²につき腐葉



反り返る花冠と副花冠が同じ色になるアスクレピアス・ツベロサ

土1ℓをすき込み、鉢植えの場合は、赤玉土6、腐葉土4の割合で混ぜ合わせたものがよいでしょう。

肥料

元肥として、地植えの場合は1m²につき150g、鉢植えの場合は、5~6号鉢で10gを目安に、緩効性化成肥料を施します。追肥はどちらも、4~6月と9~10月に月2~3回、液肥を与えましょう。

植えかえ

地植えにした耐寒性種は、多年草として育てることもできます。その際は株が混みすぎると花つきが悪くなるので、2~3年に1回、株分けをかねて植えかえましょう。適期は4月です。



花冠と副花冠の色のコントラストが美しいアスクレピアス・クラッサウィカ

殖やし方

実生または株分けで殖やします。採種は秋に種子が熟してから行い、よく乾燥させて冷暗所で保存しましょう。

株分けの適期は4月。塊茎状に伸びた根のまわりの土をすべて落とし、各株に芽をつけて切り分け、新しい土に植えつけます。

購入アドバイス

苗は6~8月ごろ出まわりますが、流通量が少ないので種子を購入するほうが確実です。種まき時期にできるだけ新しいものを購入しましょう。

作業	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
日照		日向														
水やり		少なめ							ふつう			少なめ				
肥料																
植えかえ																

病気対策と害虫防止

- 春先に発生するアブラムシは、新芽や花芽、葉などについて養分を吸い取り、株を弱らせます。見つけ次第捕殺し、早期にオルトラン、スミチオン乳剤などの殺虫剤を散布して駆除しましょう。